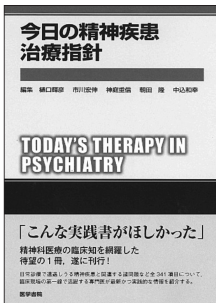


## 書評



### 今日の精神疾患治療指針

樋口輝彦・市川宏伸・  
神庭重信・朝田 隆・  
中込和幸 編集  
医学書院 2012年2月  
1012頁, 定価 14,700円

医学書院の「今日の治療指針」といえば、どの病院に行っても外来や病棟に一冊は備えられており、治療法に迷った医師が参照するためにたいいぼろぼろになっているものである。今回この精神科版に相当する「今日の精神疾患治療指針」が新たに発刊された。A5判の小ぶりではあるが全体で1000ページ近くあり、項目数は341で執筆者は300人を超える辞書のような大冊である。治療指針と名付けられているが、実際は症候学や診断、さらには最近注目の概念などがほとんどすべて網羅されている。とはいえ記述は簡潔で通常の項目はおおむね3ページ前後である。統一された小見出しがついているため、頭を整理しながら読むことができる。このため、診療机の上に置きハンドブックとして使用できるだけでなく、精神医学の教科書あるいは新しい知識を仕入れるためのイヤブックのような使い方もできそうである。実際、第1章の「症候・主訴からのアプローチ」では、意識、妄想、不安など精神医学の基本的な症候が教科書的に説明されている。このような抽象的な概念を理解しなければならないことは、精神医学を他の医師から遠ざける1つの原因であるが、それぞれの記述は力作である。第2章以降は、統合失調症、気分障害、神経症性障害と続き、それぞれの疾患ごとに、疾患概念、診断のポイント、治療方針が説明され、具体的な処方例が提示されている。この形式は、「今日の治療指針」でおなじみのものである。治療指針の中では、「患者・家族説明のポイント」の項目が必ず用意されている。患者や家族へのサイコエデュケーションが強調される今日、精神科医が説明責任を果たす上でも重要な項目である。本書ではこのような疾患別の項目の他に、「精神科救急」、「精神科リハビリテーション」、「その他の臨床的諸問題」の章も用意され、細かな分野にまで目が届くように編集されているのが特徴である。

特長としては、なによりも網羅的であることであろう。おそらく本書で扱われている項目をすべて知っているとしたら、それは真の意味でのスーパー精神科医である。書評子はいくつかの項目についてはほとんど無知であったことを白状しなければならない。本書を利用するというよりも、本書で勉強させてもらうというのが正確なところである。最近注目の病態（非定型うつ病、辺縁系脳炎、病的賭博、慢性疲労症候群など）や治療法（TEACCH、認知リハビリテーションなど）についても網羅されている。各疾患を扱った章の中では高齢者の精神障害と薬剤性と症状性精神障害の章が充実している。一般の精神科臨床ではあまり遭遇しない疾患をあえて多めに紹介しているようである。このようなめずらしい疾患に対するときこそ役に立つのが、真の意味での治療指針であろう。一方、面接や診断法、さらに検査法のところは、目の前の患者に対してすぐに適用できるようなものではないが、じっくり読んでいく記事として興味深い。

しかし、大冊である分いくつか問題もなしとしない。300名以上の著者となると記述の深さをそろえることは難しくなる。なかに「とんがった」意見を持つ著者が、独自の治療指針を開陳しているところも散見される。薬物療法については、薬物を商品名でリストアップする必要があるためか、著者の好みも反映されがちになっている。また、著者の記述がエビデンスに基づいているかを参照できるためにも、もう少し文献が多く引用されてもよかったように思われる。治療の開始の適応はあっても、どのようにして終了するか記述は乏しい。しかし、これらの点は初めての出版なのでやむをえないかもしれない。おそらく定期的に改訂されることであろう（そうでなければ精神医学は進歩していないことになる）。編者の先生方には努力していただき、次版で考慮されることをお願いしたい。

本書は、開業医であれ、精神科病院あるいは一般総合病院の勤務医であれ、福祉や教育などの仕事に携わっている医師であれ、精神医学に携わっている医師であるならば、その仕事内容にかかわらず、幅広く役に立つ一冊である。決して安価ではないが、投資するだけの価値はある。書評子は診療机の上に置き、ときに自分の治療法の適切性をチェックするために参照し、診察中のちょっとした時間の空きには、あまり知らない分野の項目を勉強のために読むこととした。もちろん患者の眼には触れないように置くところには注意して。

(仙波純一)